

グループ名 ・代表者名	山下正寿	助成金額	70万円
連絡先など	TEL 0880-66-1763		
助成のテーマ	ビキニ水爆実験被災船員の実態調査		

【調査研究・研修の概要】（調査研究・研修のねらい・手法・成果など）

- ・高知関係マグロ船乗組員の健康追跡調査を進める。
- ・福島原発事故による漁業影響について茨城・福島県聞き取り調査を実施する。
- ・京都で「ビキニ事件から見た福島原発事故」のシンポジウムを開く。
- ・高校生による調査活動をひろげ、韓国の釜山高校生とビキニ被災合同調査を行なう。
- ・DVD「わしも死の海におった」の上映会を広げる。

年 月 | 活 動 経 過 な ど

- ・2011/5 高知市・土佐清水被災漁船員調査
 - ・ /6 福島原発事故による漁業影響について茨城県、ビキニ被災船について静岡県漁業関係者から聞き取り調査をする。
 - ・ /6 「焼津平和賞」受賞
 - ・ /7 研究協力者を中心に「ビキニ事件から見た福島原発事故」シンポジウムを開く。270名
 - ・ /8 韓国のヒバクシャ調査にとり組んだ釜山高校生と高知・幡多高校生ゼミナールが幡多地域でビキニ被災合同調査を行ない、「全国高校生平和集会」（長崎）でヒバクシャ問題について共同報告する。
- ・ /8 1989年実施の室戸マグロ船乗組員健康調査(47人)のその後の健康状態を中心に聞き取り調査の実施。
- ・ /12 東京、千葉、福島、静岡へ調査
- ・2012/2 NNNドキュメント「放射線を浴びたX年後」報道、「ビキニ・福島報告集」作成作業
 - ・ /3 「3・1焼津ビキニデー」参加・報告
 - ・ /3 「伊方原発訴訟第2次申請」に共同代表で参加

会 計 報 告 書 の 概 要 （金額単位：円）			充 当 し た 資 金 の 内 訳		
支 出 費 目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	京都・茨城・福島・東京・静岡・高知	408,890	396,278		12,612
資料費	本・DVD	10,990	10,990		
機材・備品費	コピーインク・用紙	3,662	3,662		
会議費	会場費	4,000	4,000		
印刷費	報告集・DVDコピー	230,920	190,920		40,000
協力者謝礼など	謝礼	70,000	70,000		
外部委託費					
その他	郵送料	24,150	24,150		
合 計		752,612	700,000		52,612

参考文献（ウェブサイトや書籍、成果物など）

- ・報告集「ビキニ・福島被災報告集」
- ・DVD「わしも死の海におった」

ビキニ水爆実験被災船員の実態調査と事件の実相解明

山下正寿

・放射能汚染魚はこれから拡大、深刻化する

「ビキニ事件」の時、日本政府の調査船・俊鷲丸は、1954年5月15日から水爆実験被災の第1次調査を行ない、ビキニ環礁150キロのところで最大汚染水域に突入した。海水は7000カウントをこえ、水しぶきを浴びるだけでも危険という状態で、プランクトン(10000カウント)も魚(かつおの肝臓48000カウント)もすべて汚染されていた。汚染海水は、深さ100メートル、幅約10~100キロのベルト状になってゆっくり西方に流れていた。

福島原発事故対応で、水産庁は「海に流出した放射能水は、やがて拡散・希釈する」とし、ビキニ事件の海水汚染が温度差のため上層と下層が混ざらずに移動した事実を無視した。こうした政府の対応が、東電による一方的な放射能汚染水の海中放棄を許し、外国からも抗議されることとなった。東電は4月21日、海に流出した汚染水の放射性物質の総量は、少なくとも4700テラベクレル、約520トンと公表した。6月3日に、東電は福島第一原発1~4号機の建屋地下などにたまっている汚染水の総量は計10万5100トン、ヨウ素・セシウムの放射能は計72万テラベクレル(同原発の外部への放出限度の327万年分)と公表した。高濃度汚染水が地下水に浸透しやがて海に流出する危険がある。

三陸沖は世界三大漁場と呼ばれ、親潮の運ぶ大量のプランクトンを貝や小魚が食べ、イカ・サンマ・ニシン・カツオ・マグロなどが育つ豊かな漁場である。福島原発沖は親潮と黒潮がぶつかり、沖に流れ、一部は反転して西日本の沿岸に沿って下り、この流れにのるカツオが「下りカツオ」と呼ばれる。放射能汚染されたプランクトンを貝や小魚が食べ、食物連鎖でセシウム137が肉に、ストロンチウム90が骨に集まる。

4月に入り、茨城県沖で獲れたコウナゴから400ベクレル/kgの放射能が検出され、10月には福島県・茨城県にアユ・ウグイなどの川魚、スズキ・アイナメ・シラス・カレイ・ヒラメ・エイ・カニ・ウニ・貝・海藻など沿岸海域の魚貝類に暫定規制値を超える放射能汚染魚が獲れた(「水産総合研究センター」)。

川から沿岸海域の海底土まで汚染が広がり沿岸流にそって、汚染海域が広がって南下しており、カツオやマグロなどに高濃度大型汚染魚が出てくる可能性がある。10月に、北海道漁協は福島沿岸のサンマ操業この海域でとれたサンマの水揚げを自主的に中止した。

海へ垂れ流していた放射能汚染水が一時的に止まっても、今まで累積した森や街の汚染水(地下水)や原発周辺に累積した放射能が雨の降るたびに海へ流れだし、また陸上の放射能除去作業で流された水が排水溝から川へ、そして海へ流れ、茨城、千葉、東京湾海底の泥に堆積し始めている。

・ビキニ被災船員は福島原発被災者の未来を警鐘する

マグロ船第二幸成丸(室戸・192トン)は、1954年2月24日に神奈川県浦賀を出航し、3月1日はビキニに向かって航行中のため実験に気がつかずにビキニ東方1000キロの海域で17日間の操業を続けた。操業終了前に2回目の実験がおこなわれ、帰路の4月7日に3度目の実験がおこなわれ、航海中に3度の水爆実験があった。4月15日に東京・築地に入港し、船の方向探知器・ビン玉から4000カウントが検出された。

乗組員20名を追跡すると生存者7名、病死12名(ガン4名、心臓発作4名など)、不明者1名であった。病死者は、10名は40~60代、2名は70代前半であった。

新生丸(安芸・172トン)の乗組員については、宿毛市の漁村から同じ船に乗り継いだ7名をグループとして追跡した。7名中生存者は1名であり、病死6名(ガン4名、心臓発作2名)中50代が3名だった。生存者の1名も心臓近くの血管と胃の手術をしている。

第五海福丸は4月7日帰港時に汚染マグロ340本を海洋放棄した。乗組員の判明者18人中9名が病死(ガン5名)、生存者もリンパ腺ガン、結核、胃潰瘍などで手術をしている

第二幸成丸、新生丸、第五海福丸の3隻の漁船員のガン死亡率は、0,615%、2,0%、0,65%となり、広島原爆爆心地から1km以内の原爆被爆者の0,504%よりも深刻な被曝をしていたと推定される(沢田昭二、名古屋大名誉教授)。

高知県ビキニ被災調査団による自主的な健康診断が1986年に室戸市(8名)・土佐清水市(10名)、1989年に室戸市(47名)で高知民医連の協力で開かれ、計65名の被災漁船員が受診した。

1987年の「高知県統計」では、死亡原因の県平均100に対し、ガン143.5、心疾患139.6と「室戸の男性は有意に高い」と記録されている。

この47名を2011年に追跡調査したところ、死亡者30名、生存者17名で、主な疾患はガン17名(36,2%)、脳疾患10名、心臓疾患5名などだった。こうした検査結果からビキニ被災漁船員の内部被ばくによる深刻な晩発性障害がみられる。

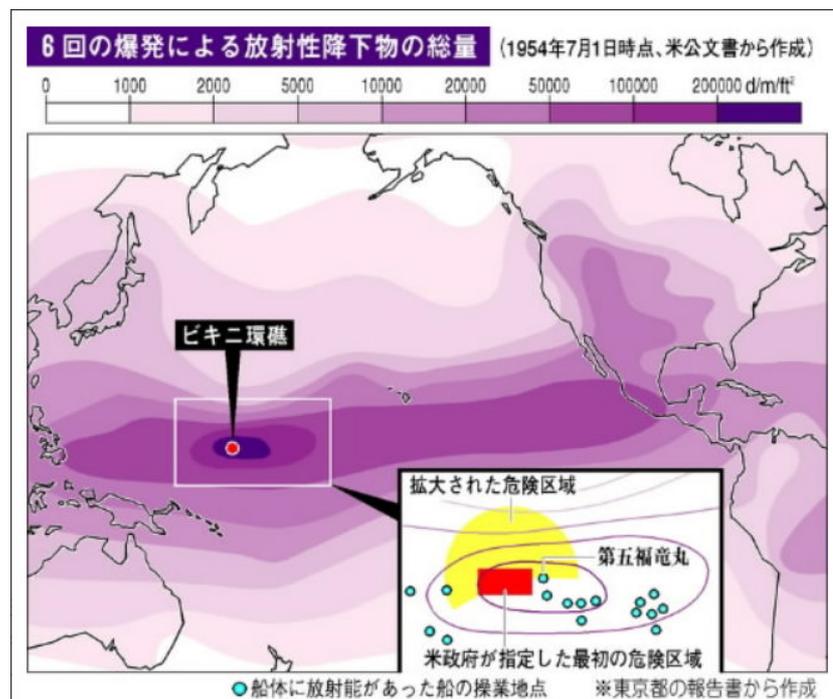
現在の福島原発被災で、原発労働者、高レベル放射能汚染地域住民のみならず海洋汚染土やガレキ除去に関わる漁船員や作業員は要注意である。放射能雨、汚染食物の摂取などによる体内被曝が10年20年後にどう影響するかを予測するためにもビキニ被災者の健康調査を徹底し、福島原発被災との比較分析がもためられている。

「米公文書・キャッスル作戦・放射性降下物」

公文書は1955年に米原子力委員会が米気象局と作成した抜粋で、1984年に機密解除されている。世界122地点で観測し、3月～6月の4ヶ月、ほぼ毎日測定したd/m/ft²(約30センチ四方の粘着板に1分間に当たる放射能崩壊数)を、放射能減衰曲線に沿って、実験から100日後の予測数値と6回の総量も記録している。

ビキニ環礁から東西に降灰は日本・フィリピン・メキシコなど北半球を中心に広がり、アメリカには日本の5倍も降っている。6回の実験の総核威力は48,3メガトン(広島原爆の約3220倍)、放射性降下物総量は100日後で22.73メガキュリー(2273万キュリー、84万テラベクレル)である。また、ビキニ海域の放射性降下物の地図に、東京都衛生課の「船体に放射能のあった船」の記録を重ねると、第五福竜丸含む5隻が200000d/m/ft²海域(半数の被災者が死亡する3～5シーベルト・毎時相当)に、7隻が100000d/m/ft²海域に、10隻が50000d/m/ft²海域にいて、日本のマグロ漁船の船体汚染が米「公文書」で立証されたことになる。ビキニ水爆実験で「死の灰」は成層圏に達して1年以上も北半球全域に降り、ストロンチウム90、セシウム137などの放射能汚染が続き、発ガン率(ヨーロッパ放射線リスク委員会統計、6500万人のガン、小児、胎児死亡)を高めた原因と言われている。特に、日本の小児ガン死亡率が核実験にそって高まり、1968年に戦前の7倍となっている。

福島原発事故による放射能汚染による内部被曝の影響予測にとって、この「キャッスル作戦」の記録とマーシャル諸島の被災者、ビキニ被災船員の健康調査分析が重要になるだろう。



「キャッスル作戦」放射能降灰図

高知・静岡・福島・韓国を結ぶ高校生たち

高知県西南部・幡多(はた)郡に、1983年夏、公立高校9校を結ぶ自主的サークル「幡多高校生ゼミナール」(幡多ゼミ)が結成され、地域の現代史調査にとりくんだ。1985年、高校生たちはビキニ事件の社会的背景、水爆実験と放射能など「知りたいから学ぶ」本物の学習を積み重ねて、後輩へと引き継いでいった。

「学び、調査し、表現する」活動は、幡多地域から室戸、東京(第五福竜丸)、焼津、広島、長崎、沖縄へと「平和の旅」を軸に広がり、歌・紙芝居・合唱構成詩・本・VTRそしてドキュメンタリー映画「ビキニの海は忘れない」など、社会に向けて澁刺とした意見表明を続け、2011年に第2回「焼津平和賞」を受賞した。

この受賞を契機に、福島から高校生グループ『たねまきうさぎ』を迎え、震災・原発の朗読詩を発表してもらい、四万十川のカヌーや宿毛湾での釣りなど幡多の自然体験交流にとりくんだ。朗読詩を聞いた高知の高校生は「福島の高中生に来てもらって、震災の実体験を語ってもらった。家を失い、お腹をすかせ、悲しんでいる場面が浮かんでくるようにわかった。自分たちもいずれおこる震災にむけて、ひとごとではなく自分のこととして聞こうと思った」と感想を書いた。また福島の高知生は「私たちは、毎日低線量の放射線に被曝しています。ただ被曝しているという事実には怖がるだけや、知っているだけで何もしないのではなく、これからは放射能について学び、放射能の性質や被曝した場合どんな被害や対処法があるのかを知り、放射能を正しく怖がろうと思います。高知の方と触れあって、私の気持ちがりフレッシュできましたし、福島の問題を一緒に解決しようとしてくれていることを知り、高知にいて良かったと思います」

■ 第五海福丸（室戸船籍▽157㍻）乗組員名簿 （▼死亡、○生存、△不明）

＝2011年2月9日現在

名前	役職	生年月日	住所	症状、没年月日など
▼ 1	漁労長	1910 (74歳)	室戸市	心筋梗塞(1984. 12. 27死亡)
▼ 2	船長	1931 (57歳)	徳島県海陽町	66年吐血胃潰瘍手術▽肝臓がん、死亡。
▼ 3	機関長	(49歳)	室戸市	34、35年前に腎臓がんで死亡。
○ 4	操機長	1929 82歳	土佐清水市	体の痛み▽56年結核1年療養▽糖尿病
○ 5	通信長	1929 82歳	広島市中区	要確認
▼ 6	甲板員		黒潮町佐賀	08年に電話止まる
▼ 7	甲板員		室戸市元	甲状腺肥大▽がん▽高知日赤で手術、死亡
○ 8	甲板員		神戸市	01年脳に水、手術、脊椎圧迫で足が痺れる
▼ 9	甲板員		土佐清水市	胃潰瘍▽5、6回手術▽大阪で死亡
▼ 10	甲板員		土佐清水市	病気、死亡、
▼ 11	甲板員		土佐清水市	腸がん、死亡
▼ 12	甲板員	(21歳)	土佐清水市	ケンカで刺され21歳のころ死亡
○ 13	甲板員	1929 82歳	徳島県海陽町	盲腸、足に動脈瘤、アルツハイマー
△ 14	甲板員		徳島県海陽町	
○ 15	甲板員		室戸市	奈良県在住、
○ 16	甲板員		室戸市	認知症で施設入所
○ 17	機関員	1932 78歳	安芸市	リウマチ▽肋骨変形▽甲状腺悪い
○ 18	機関員		宿毛市	肩張り、断食療法▽リンパ腺がんで県外入院
○ 19	機関員	1932 78歳	室戸市	当時、めまいが日に2、3回の頃も、胃潰瘍手術
▼ 20	コック長	(69歳)	土佐清水市	胃がんで死亡
△ 21			高知市	長期にわたり体調悪く入院、二十回手術(骨)か
△ 22	機関員		室戸岬町	盲腸炎。地区内に知人ゼロ
△ 23			長崎出身	
△ 24				

▼死亡10人—死因(がん5、心筋梗塞1、胃潰瘍1、病死2、事故1) ○生存者9人(リンパ腺がん1、胃潰瘍手術1、脳手術1、認知症2、結核1など) △不明者5人